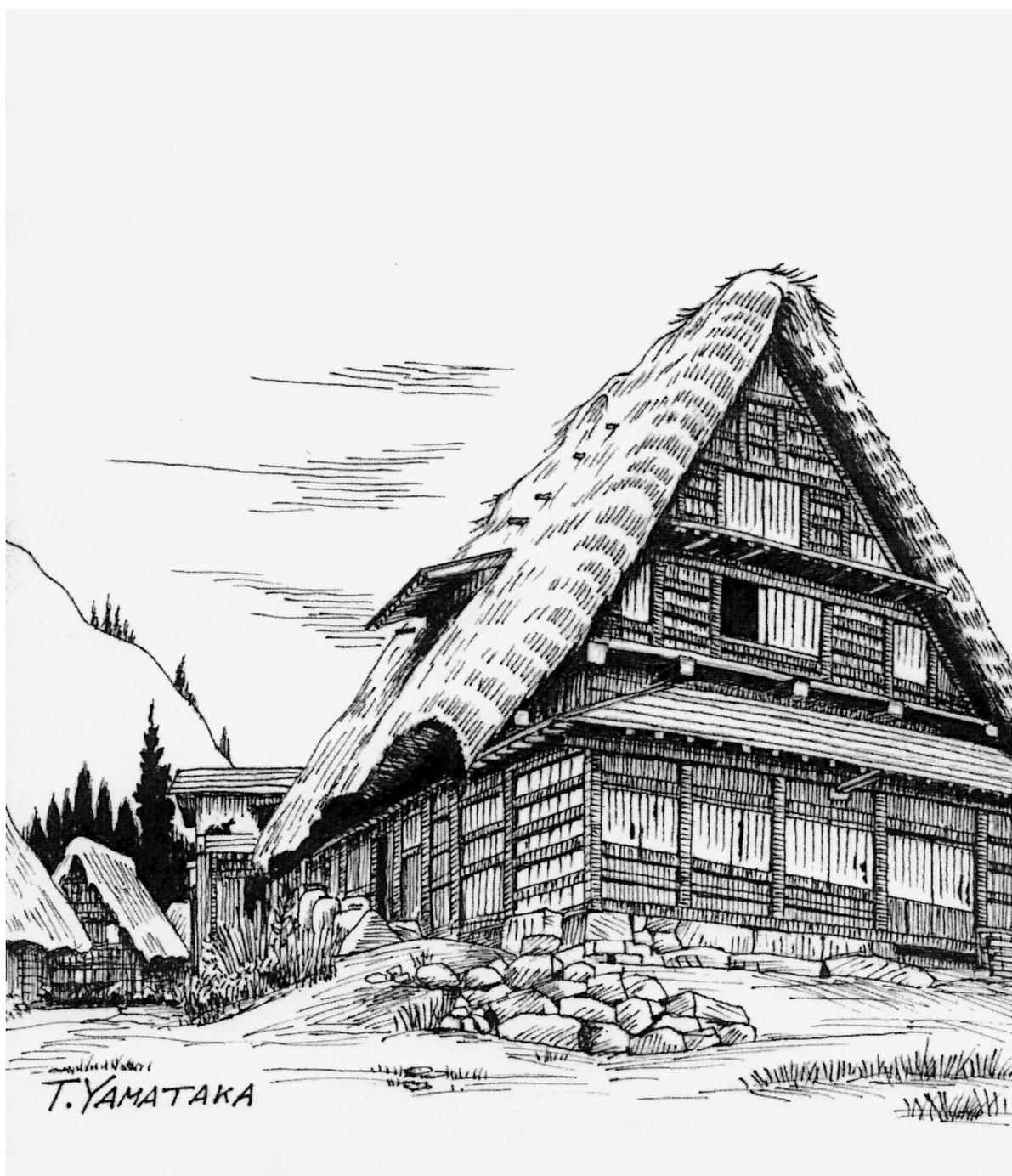


# 東京 肝臓のひろば

平成 30 年(2018 年)10 月号 第 226 号

特定非営利活動法人 東京肝臓友の会

〒161-0033 東京都新宿区下落合3-14-26-1001  
電話 (03) 5982-2150 振替 00120-6-40564  
FAX (03) 5982-2151 口座名 東京肝臓友の会  
<http://www.tokankai.com>



相倉合掌集落 一富山県・平村一 絵・山高 定三さん

# 平成30年度第2回理事会報告

平成30年度第2回理事会は9月22日(土)午後1時半から3時半まで、目白の東京肝臓友の会事務所で開催。当日は理事、監事12名中、出席が10名、委任状2名で理事会は成立しました。規定により新理事長である川田氏が議長を担当し、事前に配布の議案書に沿って議事が進められました。

## 【報告事項】

まず、平成30年度通常総会(6/9)以降の主な活動について東肝会関係者を米澤事務局長、日肝協関係者を野田副理事長が報告しました。東肝会関係は①相談事業の電話相談は大きく減少傾向②医療講演会は東肝会主催1回、日肝協主催1回を取り組みました。③部会活動は「PBC、AIH、PSC部会」が開かれ、講演と交流会が開かれました。その他、東京都関係で第11回通常総会の議事録、予算、決算、理事名簿等を東京都NPO法人課

に提出受理されたこと、肝炎対策に関する要望書を東京都に提出したこと等が報告されました。

日肝協関係は①国会請願行動(請願は衆参両院で採択)②第7回世界・日本肝炎デーフォーラムの実施、いずれも準備、当日受付その他東肝会が中心に取り組みられ成功したことが報告されました。報告事項に関する質問、意見が出され討議しましたが、報告は了承されました。

## 【協議事項】

協議事項に移り、第1号議案、東京肝臓友の会 会報紙「東京肝臓のひろば」と日肝協会報紙「肝臓のなかま」2紙の統合について討議しました。日肝協に加盟している地方の患者団体の中には、会報紙を発行できないところもあり、医療情報を掲載した「ひろば」と活動報告を主とした「なかま」を統合し提供することで地方の患者団体の

活性化を図るものです。討議の結果、統合が決定、名称を「肝臓のひろば」とすることが決まりました。その他事項として10月28、29日に兵庫県明石市で開催の「日肝協代表者会議」への参加の訴えがあり、各患者会から代表を出す努力をすることを確認して理事会は終了しました。



## 東京肝臓のひろば 226号

### ●もくじ

東京肝臓友の会「平成30年度 第2回理事会報告」・・・2

#### 講演録

第7回 世界・日本肝炎デーフォーラム  
「肝疾患診療の進歩と今後の展望」  
～肝炎・肝がん治療の最新情報～・・・3

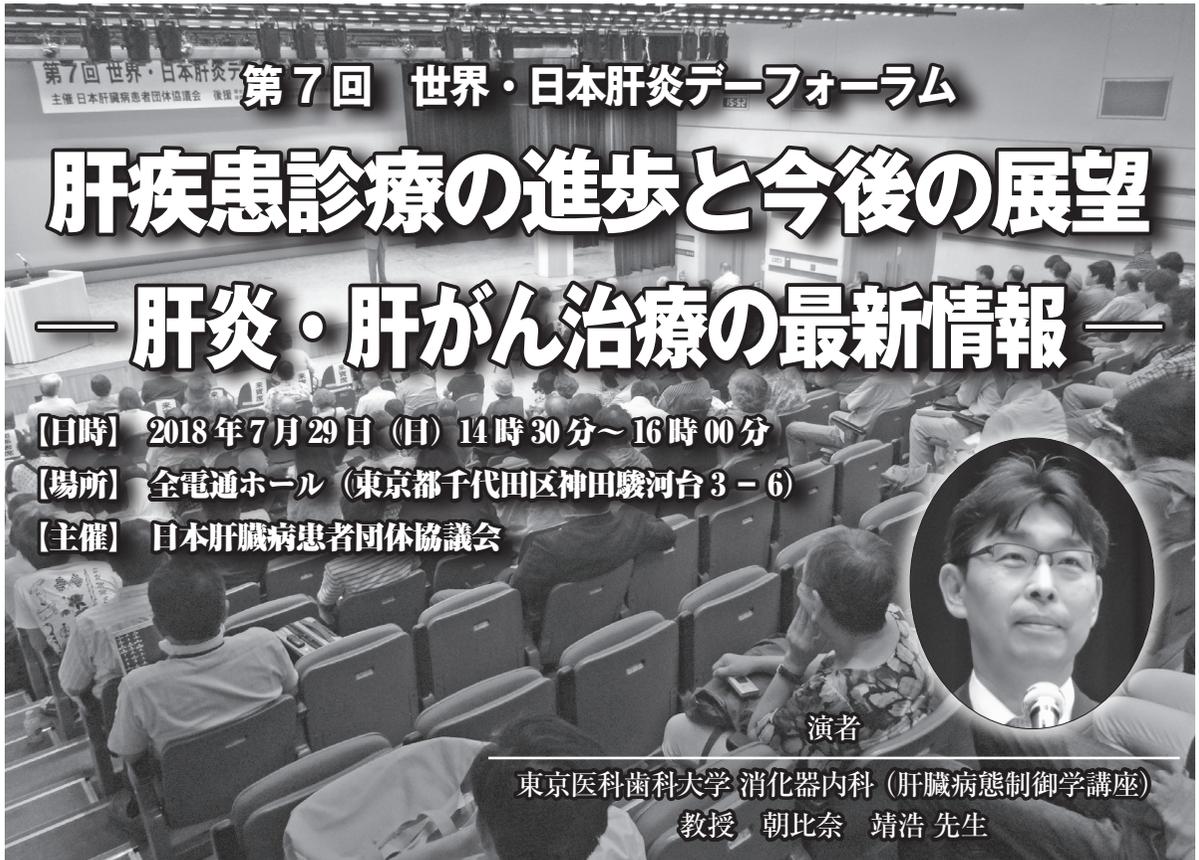
東京医科大学 消化器内科 (肝臓病態制御学講座) 教授 朝比奈 靖浩 先生

PBC・AIH・PSC通信 ……………26

ジコメン・メディカル・シンヤク 寄稿 ……………27  
帝京大学医学部付属病院 田中 篤 先生

東京肝臓友の会 活動日誌(8月、9月) ……………29  
……………

情報BOX ……………30  
患者会からの行事案内  
講演会のご案内



第7回 世界・日本肝炎デーフォーラム

# 肝疾患診療の進歩と今後の展望

## — 肝炎・肝がん治療の最新情報 —

**【日時】** 2018年7月29日(日) 14時30分～16時00分

**【場所】** 全電通ホール (東京都千代田区神田駿河台3-6)

**【主催】** 日本肝臓病患者団体協議会



演者

東京医科歯科大学 消化器内科 (肝臓病態制御学講座)  
教授 朝比奈 靖浩 先生

司会 (村田充) 第2部司会の日肝協常任幹事、村田です。よろしくお願いたします。今日は、東京医科歯科大学消化器内科、朝比奈靖浩教授をお迎えしての講演会です。始めるに当たり、先生のプロフィールをご紹介しますいただきます。

先生は、1988(昭和63)年、滋賀医科大学医学科を卒業されまして、同年に東京医科歯科大学医学部第二内科に入局されました。96(平成8)年には米国コネチカット大学医学部消化器内科にお勤めされまして、1998(平成10)年からは武蔵野赤十字病院消化器科副部長、2006年(平成18)には武蔵野赤十字病院地域医療連携センター副センター長を併任、2009(平成21)年には武蔵野赤十字病院消化器科部長にられました。2010(平成22)年には滋賀医科大学客員教授を併任され、2012(平成24)年からは東京医科歯科大学消化器内科・大学院肝臓病態制御学講座の教授に就任されました。専門分野はウイルス性肝炎及び肝がんの診断・治療、研究テーマはウイルス性肝炎及び肝がんの病態分子機構、新規治療法の開発と、非常に深く研

究されていらっしゃいます。

朝比奈先生による演題は、3つの項目に分かれます。まずB型肝炎のウイルス排除を目指して。2番目にC型肝炎治療後の課題、3番目に、肝がんの最新治療について、となります。

それでは、朝比奈先生、よろしくお願い申し上げます。(拍手)

### 1. 世界におけるウイルス性肝炎

朝比奈 皆さん、こんにちは。ただいまご紹介にあずかりました東京医科歯科大学の朝比奈でございます。村田常任幹事、ご丁寧なご紹介をどうもありがとうございます。今日は世界・日本肝炎デーということで、このような場でお話をさせていただきます。代表幹事をはじめ、日肝協の関係各位の皆様にご挨拶申し上げます。

第1部でもいろいろ話題になっていましたように、昨日台風が来て来たので、今日果たしてここに

配致しました。もつとも、私のおります  
まず医科歯科大学は、このすぐそば  
のお茶の水の駅前ですから歩いて  
来ることが出来るのですが…(笑)。  
それでも果たしてここに来られる  
のだろうかかと心配しておりました  
ところ、今日になって東京では風雨  
が止んで、来ることができました。  
しかし、台風はまだ西日本を通過中  
と聞いておりますし、先日には西日  
本を中心に豪雨災害がありました。  
今日、ここに来たくても来られなか  
った方もいらつしやると思います。  
あるいはここにお見えの方の「家  
族、ご親戚、あるいはお知り合いや、  
お友達の中にも被害に遭われた方  
がいらつしやるかと思えます。こ  
の場をかりて心からお見舞い申し  
上げます。

さて、先ほど村田様から演題名を  
詳しくご紹介いただきましたが、今  
日は「肝疾患診療の進歩と今後の展  
望」という簡単な題もつけさせてい  
ただきました。肝疾患、特に肝炎、  
肝がんの治療の分野では非常に進  
歩が速いので、今日はその最新情報  
を皆さんにお届けして共有したい  
と思っております。

ただテーマが、B型肝炎、C型肝炎

炎、肝がんと非常に多岐にわたります  
ので、本日はその中でも特にトピ  
ックスにフォーカスを当ててお話を  
させて頂くこととなります。し  
ばらくの間、よろしくお願い致しま  
す。

まず、最初のスライドから英語  
で申しわけありません(図1)。こ  
のスライドは世界における死亡原  
因の疾病ランキングを示したもので  
です。今日は世界・日本肝炎デー  
ということ、このようなスライド  
を持つてきました。これは Global  
Burden of Disease Study (疾病負  
担研究) というもので、1990  
2013年の23年間に、世界におけ  
る疾病死亡ランキングがどのよう  
に変化したのかを調べたものです。  
今日話題になっていきます肝炎は、10  
位から7位にランキングを上げて  
しまっています。世界中では年間  
145万人がこの病気で死亡するに  
なっているという重大な病気であ  
ります。

下痢性疾患、結核、マラリア、こ  
ういった多くの感染性疾患がこの  
23年間に軒並みランキングを下げ  
ているのに対し、ウイルス性肝炎は  
ランキングを上げてしまっている

ということ、世界保健機構(WHO)では、2030年までにこの病  
気を確実にコントロールしようとい  
う明確な目標を立てております。  
この「世界肝炎デー」もその取り組  
みの1つでありまして、7月28日を  
世界肝炎デーと決めて世界中で真  
剣に考えて行動していこうとして  
います。この様に、肝疾患の制圧は  
世界的な重要課題と言えらると思  
います。

皆さん、この7月28日がなぜ肝  
炎デーになったかご存じでしょう  
か。日肝協の方はご存じかと思  
います。これはブルンベルグ(Bruno  
Samuel Blumberg) 博士の誕生日  
にちなんで設定されたとお聞きし  
ております。ブルンベルグ博士は、  
1960年代にB型肝炎ウイルス  
を発見した先生で、その功績がた  
えられてノーベル賞を受賞されて  
おります。その博士の誕生日にち  
なんで世界肝炎デーの日付けが決  
まりました。

この疾病負担研究の中では、世界  
地図も示されています(図2)。こ  
れは世界における肝炎関連死亡の年  
齢調整死亡率を示すもので、緑色の  
濃い国あるいは地域が、肝炎関連死

の割合が多いところ、すなわ  
ち中央アジアや、サハラ砂漠より南  
のアフリカ地域は死亡率が高いと  
なっています。しかし、我が国を含  
む東アジア地域では人口が多うご  
ざいしますので、死亡者数という観点  
では世界ワースト1になってしま  
います。

肝炎ウイルスにはA型からE型  
までありまして、この地図の中の円  
グラフには、どのウイルスが死亡原  
因になっているかが示されていま  
す。インドやインドネシアではE  
型肝炎で亡くなる方がいらつしや  
るようですが、多くの国ではB型肝  
炎ウイルス、C型肝炎ウイルスが重  
要な原因になっていることがわか  
ります。そして我が国ではC型肝炎  
炎が死亡原因として多く、一方お隣  
の中国やほかのアジア地域では、B  
型肝炎が大きな死亡原因を占めて  
いることがわかります。B型肝炎  
にしてもC型肝炎にしても、これら  
のウイルスの持続感染を制御する  
ことが肝臓病で亡くなる方を減ら  
すための非常に重要な目標、課題と  
なっています。

日本における肝疾患関連死亡の  
多くは、肝がんです。ウイルス性肝

都立駒込病院 肝臓内科 治験実施のお知らせ

C型またはB型肝炎ウイルスに起因する肝硬変の患者さんを  
対象とした医師主導治験を実施しています

今回の治験は、PRI-724という治験薬を投与したときに患者さんにとって好ましくないことが起こらないか確認する安全性と、患者さんの肝臓の線維化が改善するかどうかをみる有効性を検討するものです。



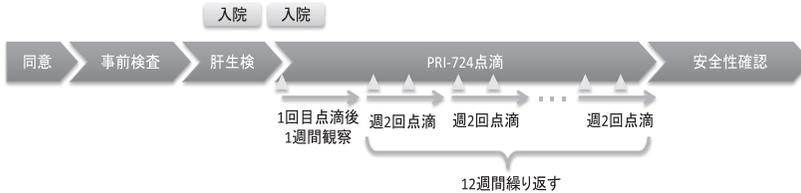
都立駒込病院 肝臓内科部長  
木村 公則

参加いただける条件(※その他条件がございます。)

・Child-Pugh ScoreがAまたはBの状態にある患者さん。20歳以上75歳未満の患者さん。

PRI-724の投与とスケジュール

- ・入院して事前検査(血液検査、肝生検、腹部CTなど)を行い、治験参加の条件を満たしているか確認します。
- ・入院してPRI-724を4時間かけて点滴します。投与後、約1週間は安全性確認のための観察を行います。
- ・次の投与からは外来にて週2回、4時間の点滴を行い、これを12週間繰り返します。
- ・PRI-724の全ての投与が終了した後も、安全性を確認するための検査を行います。



東京都立駒込病院  
〒113-8677 東京都文京区本駒込3-18-22  
お問い合わせ<9:00~17:00>  
臨床研究支援室 03-3823-2101  
詳しくは当院のホームページをご覧ください。

2018年9月作成

Keio University



慶應義塾大学病院主催 肝臓病教室

肝臓病をかかえる患者さんを対象に、情報を提供するための教室を開催しています。患者さんだけでなく、ご家族の参加も歓迎します。最新の知見、治療に関心のある方は是非ご参加下さい。

第1部 肝疾患の栄養について

清水真美子先生 (慶應義塾大学病院 管理栄養士)

第2部 肝臓病に必要な筋肉の維持 (サルコペニアの話)

山高果林先生 (慶應義塾大学病院 消化器内科)

肝硬変・肝臓がんと言われたら (肝臓がんの最新治療を含めて)

谷木信仁先生 (慶應義塾大学病院 消化器内科)

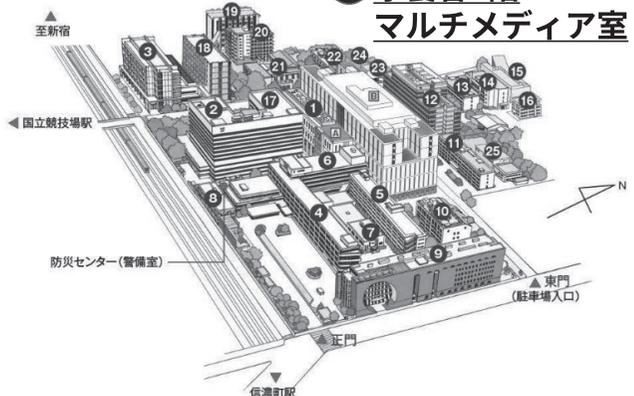
【日時】 2018年11月24日 (土)

12:00~14:00

【会場】 慶應義塾大学病院内右図

03-3353-1211 (代表) 申込不要

10 孝養舎2階  
マルチメディア室



市民公開講座 AIH・PBC・PSC医療講演会

# 自己免疫性肝疾患を正しく学ぶ

2018年 **11月25日(日)** 14時～16時 (開場13時30分)

会場: **TKP御茶ノ水カンファレンスセンター ホール2A**

## プログラム

- 講演 1. **自己免疫性肝炎 (AIH)**  
「治療の実際 ～ステロイドの話題を中心に～」  
信州大学医学部附属病院消化器内科 特任教授・  
国立病院機構信州上田医療センター 院長 **吉澤 要 先生**
- 講演 2. **原発性胆汁性胆管炎 (PBC)**  
「治療の進歩、最近の話題」  
帝京大学医学部内科学講座 教授 **田中 篤 先生**
- 講演 3. **原発性硬化性胆管炎 (PSC)**  
「有効な治療法の実現をめざして」  
慶應義塾大学医学部内科学〔消化器〕 専任講師 **中本 伸宏 先生**  
～ 休憩 ～
- **東京都の難病政策について**
- **質疑応答**

定員160名  
入場無料  
★要申込

## 会場アクセス:

TKP 御茶ノ水カンファレンスセンター  
(千代田区神田駿河台 4-3  
新お茶の水ビルディング 2階)  
JR 御茶ノ水駅 聖橋口より徒歩1分

## ★主催・お申込み先:

特定非営利活動法人東京肝臓友の会  
(東京都新宿区下落合 3-14-26-1001)  
☎ **03-5982-2150**  
(祝日を除く 火曜～金曜、10時～16時)  
FAX **03-5982-2151**



本会報掲載の記事を転載する場合はご連絡ください。